つばめ通信 第８号

蓮田病院版

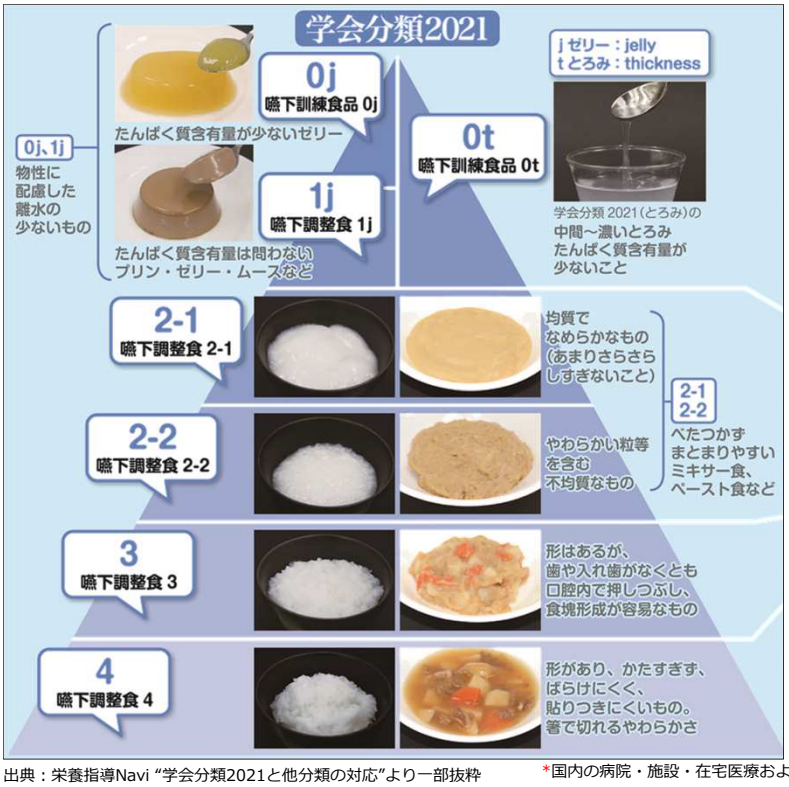
2022年2月1日

発行人：篠原千恵
発　行：蓮田病院　摂食嚥下委員会
発行所：〒349-0131埼玉県蓮田市根金1662-1
電話048-766-8111㈹

美味しく安全をモットーに

～当院の食事について No.1～

薬剤部栄養科に所属している管理栄養士の後藤和美です。
つばめ通信第5号の自己紹介でお伝えした、当院の食事の形態やとろみ粘度について今回から少しずつお伝えしていきますので、ご興味のある方はご覧頂けると幸いです。当院の食事の形態は、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の嚥下調整食分類2021*に基づいて、下記ピラミッドにお示しした通り提供させて頂いてます。個々の咀嚼・嚥下能力に対応出来るよう様々な食形態を取り揃えています。更に、嚥下能力が低下した患者様に関しては、誤嚥しないようにとろみ粘度も2種類ご用意しています。患者様ご本人様だけでなく、ご家族の方にも安心して頂けるよう配慮しています。当院の食形態・とろみ粘度についての詳細は次号にてお伝えさせて頂きます。



出典：栄養指導Navi “学会分類2021と他分類の対応”より一部抜粋

当院の食形態分類

区分	提供内容	名称・加工状態
2-1		**ミキサー食** 主食･副食の全てをペースト状
2-2		**ミキサー食(主食全粥)** 主食以外のおかず全てをペースト状
3		**ソフト食** ムース状 ゼリー状
4		**細キザミ食** **キザミ食** 2～5㎜角に刻む

*国内の病院・施設・在宅医療および福祉関係者が共通して仕様できることを目的とし段階分類を示したものです。

摂食嚥下チーム　メンバー紹介

C6病棟　看護師
冨高 由莉

皆様こんにちは。私の勤務する6階地域包括ケア病棟では、急性期の治療を終えた誤嚥性肺炎や摂食・嚥下障害のためご飯の食べる量が少なかったり、食べ物でむせこんでしまう患者様が多く入院されています。
食べることは、身体活動、日常生活、さらには、人生の中核をなす重要な機能です。食べる事が大好きであったり楽しみであるという患者様は多くいらっしゃいますが、嚥下障害で食べる事が苦痛になっている患者様も多くいらっしゃるのも現実です。私達、摂食・嚥下チームが介入することで、患者様が口から食事を美味しく食べて、元気になって退院していただけるように援助していきたいと思います。

C5病棟 看護師
本橋 富枝

はじめまして。私はC棟5階療養病棟に勤務しています。当病棟には病気や高齢のために食べられなくなり、退院先が見つからない患者様が多勢います。身体のほんの一部の小さいお口、されど生命に関わる大きな役割を担っているお口。その機能回復と共にQOLの向上を目指して、ひいては退院先のレベルアップに力を注いでいるのは摂食嚥下委員会です。とても興味が湧く委員会です。その一員でいられることをとても嬉しくまた感謝している看護師本橋です。これからもよろしくお願いいたします。

C3病棟 看護師
大石 明日香

皆様、こんにちは。
私の勤務する地域包括ケア病棟では、様々な理由で嚥下機能が低下し、経口摂取が難しい状況の患者様が入院されています。
そうした方に嚥下チームが介入することで、口から食べられるようになって笑顔で退院されていく方々を見てきた中で、食べることへの支援の重要性を感じています。
今後も嚥下チームや病棟スタッフと協力し、一人でも多くの方が口から食べる喜びを感じて頂けるように活動していきたいと思います。